

茨城県 教頭会会報

発行者
茨城県小中学校教頭会
会長 鈴木 一夫

事務局
水戸市大場町933-1
(教育プラザいばらき内)
電話/FAX 029-269-2711
E-mail iba-kyotokai@ktd.biglobe.ne.jp



ブラッシュアップ研修授業発表会

(高萩市立東小学校)



『働き方改革？ 休み方改革？』

茨城県小中学校教頭会

副会長 會澤 伯民

今年度も、在校勤務時間調査が六月及び十月の二回にわたり実施された。その結果は、果たしていかなるものであるのか。教職員の長時間勤務の実態が看過できない状況にあり、中教審において『学校における働き方改革に係る緊急提言』が出されるなど喫緊の課題の一つとなっている。

さて、勤務時間終了後の職員室において、次のような光景を常々見かけないだろうか。
「すみません。お先に失礼します。」と言って、申し訳なさそうに退勤していく先生方の姿である。勤務時間が終了して帰宅するのに、先に退勤することには何か後ろめたさを感じたことはないだろうか。早く退勤することへの罪悪感とでもいうものがある。私自身も、これまでに何度か味わった感覚である。遅くまで残って仕事をしていることが、すばらしいことなのだと錯覚していたのではないかと考える。このような感覚・職場の雰

囲気を改善していくことが働き方改革に繋がるのではないだろうか。「すみません。」という言葉を書かないことが、働き方改革の第一歩なのかもしれない。私が勤務している中学校のある高萩市では、教育委員会の考案で夏季休業中の八月十三日、十五日の三日間及び県民の日(十一月十三日)を学校閉庁日とし、日直を置かない日を設定した。当然ながら、勤務は「出勤しない。」のであるから、年次休暇や特別休暇、振替等での対応である。何かあれば、市教育委員会が窓口となつて対応するといった体制である。管理職として、忙しさのあまり休みづらいつと考える教職員に確実に休みを採らせることも、働き方改革、休み方改革になるものと考えられる。

今後、教職員の働き方を改革していくためには、管理職自身が自分の働き方を見直し、改善していく姿を教職員に見せていく必要があるのではないかと考える。

論説

「特色ある教育活動」を目指して

土浦市立下高津小学校
酒井 宏之

一 はじめに

本校は、児童数六三九名、学級数二三(特別支援学級を含む)の比較的規模の大きな学校である。また、明治九年に創立され、今年度で百四十一周年を迎え、土浦市でも屈指の伝統校である。近年、学力の低下やいじめ、不登校、規範意識等に関する課題、さらには地域社会の教育力の低下や、家庭教育の充実の必要性が指摘されており、学校が抱える課題は複雑化・困難化している。

一方、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学習指導要領の改訂をはじめ、道徳の教科化、小学校外国語教育等の導入、さらには小中一貫教育やコミュニティ・スクールの推進等、

昨今の学校教育を巡る改革もめまぐるしく変化している。本校は、時代の変化に主体的に対応しながら、「特色ある教育活動」を目指して様々な活動に取り組んでいる。

二 本校の特色ある教育活動

本校は、「小中一貫教育を目指した教科担任制の導入」、「豊かな心の育成を目指した道徳教育の充実」、「家庭や地域との連携・協働を生かした学校づくり」を柱に『特色ある教育活動』を目指し推進している。

(一) 教科担任制の導入

土浦市では、義務教育九か年における、継続的で一貫性のある教育の場の提供を通して、確かな学力の向上、中一ギャップの解消、いじめや不登校の減少、教職員の資質・能力の向上等を目指し、小中一貫教育に取り組んでいる。

本校は、小中一貫教育の一環として、高学年を中心とした教科担任制を実施している。教科

担任制は、児童がより多くの教職員と慣れ親しむことができ、中学校に進学したときの環境の変化にすぐに適応できる、中一ギャップの解消に結びついている。また、教職員の専門性や得意分野を生かした授業を受けることができ、学力向上にも繋がっている。さらに、生徒指導面においても学級に複数の教職員が入ること、同一歩調での指導が行き届くようになり、学校の安定に結びついている。

(二) 道徳教育の充実

本校の組織目標は「自ら考え、共によりよく生きようとする心豊かな児童の育成」である。そこで本校は、互いのよさを認め合い、感謝と思いやりのある心豊かな児童の育成に努めている。また、「特別の教科 道徳」について全教職員で研究を進め、授業力の向上や指導方法の改善を目指している。

① 研究組織と授業研究

本校は研究組織として「調査部」「環境部」「授業研究部」の三つの部会に分けて、役割を分担しながら、研究を推進している。また、授業研究においては、指導案は学年共同立案とし、公開授業はプレ授業・提案授業・改善授業の三段階で行い、全教職員が授業を行う。

② 「考え、議論する道徳」を目指して

本校では、道徳的な課題を一人一人の児童が、自分自身の問題として捉え、向き合うために「考え、議論する道徳」を目指し、推進している。役割演技などの疑似体験的な表現活動の導入やペア・グループ・全体での話し合いの場の設定等を通して、道徳的価値の理解を深め、児童が様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことを目標としている。



(三) 家庭・地域との連携・協働
本校には、外部組織団体としてPTAをはじめ、教育後援会、連合同窓会、保護者ボランティアの会、子ども会育成連合会等があり、人的・物的・資金的に支援を受けている。

このような外部組織団体が協力的な理由は、百四十年という「長い歴史と伝統」ということ以外にない。二世帯、あるいは三世帯にわたって本校に関わっている家庭も多く、本校に対する思いは強い。

外部人材の活用については、教育課程や各教科等の年間指導計画に位置づけられ、授業はも

ちろん、入学式、卒業式、運動会、バザー、交通安全教室、学年・学校集会等の各種行事にも協力をいただいている。

昨年度は、学校、保護者、地域住民による百四十周年記念式典が盛大に実施され、様々な記念事業が行われた。



三 終わりに

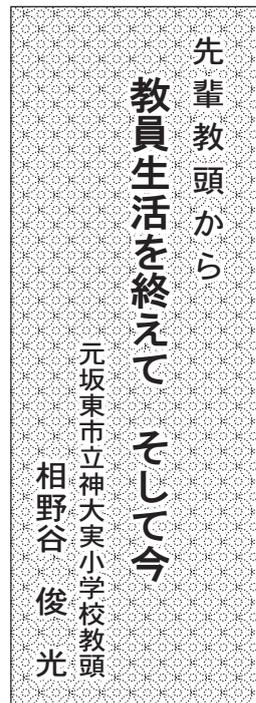
学校現場は今、様々な課題が山積している。このような中、学校は、社会が何を求めているか、それによってどのような教育を推進しなければならないかという観点での転換期を迎えていると考える。

教頭は、管理職としてのリーダーシップを発揮すると同時に、時代の変化の風を感じ、正しい方向性を見極め、そして読み取り、社会の要請を受け止め、自らが時代の変化に主体的に対応していく教育改革を推進していくことが重要となる。これらを踏まえ、常に児童を学校の中心に置くことを忘れず、学校の創意工夫を生かして、「特色ある教育活動」を展開していくことが大切であると思われる。

先輩教頭から

教員生活を終えて、そして今

元坂東市立神大実小学校教頭
相野谷 俊光



二〇一五年三月に定年退職を迎えてから、早いもので三年が過ぎようとしています。年を重ねるに従って、時間の過ぎるのが早くなると言われますが、まさにその通りで、退職してから三年間は、あつという間でした。現在は、拠点校指導教員として、週に二日、市内の小学校で勤務をしています。勤務日以外は、趣味の読書やプラモ制作、妻とのドライブ、旅行などで日々を過ごしています。

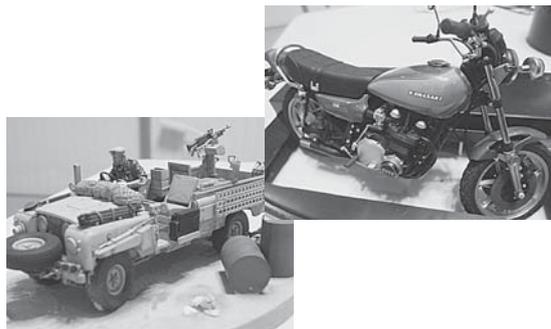
私も笑い、ともに泣き、ともに成長を実感した半年でした。新規採用で赴任したのは、境町立境小学校でした。中山光雄校長先生をはじめ、個性的で有能な先輩の先生方がたくさんおり、圧倒される思いで日々を過ごしたことを覚えています。赴任当時、境小は国語科の研究指定を受けていて、手書きで縦書きの三枚綴りの指導案、言葉も十分に伝わらない二年生の担任、放課後はサッカー少年団、教材研究はその後、そんな悪戦苦闘の中でも続けられたのは、境小の新採同期が三人いて、私も含め三人とも男性で、心強く感じました。初任者研修は、今のよう

に丁寧ではなく、拠点校指導教員もついていませんでした。先輩の先生方の進め方をまねしたり、学年主任の先生に相談したりしていました。それでも、日々の学級経営は手探りであり、自分の未熟さをあらためて知らされました。しかし、境小学校での七年間で身に付けたこともたくさんありました。ひとつは、文部省指定の道徳の研究に関わったことです。国・算などの教科の研究は、その後の教員生活の中でたくさん関わりましたが、ここで道徳について深く考える機会をもてたことは大きな財産だと思っています。二つめは、

図画工作科の指導について関心をもてたことです。二年目に、図工主任にしていたとき、それから、絵画の指導に強く興味をひかれたことです。多くの子が、義務教育を終えたら、絵を描くことからだんだん離れていってしまします。あるとき、校長先生が廊下に展示してあった子どもたちの絵を見て、「先生のクラスの絵は、全員しつかりしているねえ。」とおっしゃってくれました。すべての子に、自分の感じたことや思い、見たことを絵に表すことの楽しさを味わわせたい、という思いで指導してきたことが認められた瞬間と感じました。ほかに学んだことはたくさんありますが、特にこの二つは、自信をもって後の教員生活を続ける上で、大きな力となりました。

さて、現在の生活について少し触れます。在職中に比べて大きく増えた余暇の時間の多くは、読書とプラモデル作りに費やしています。読書では、司馬遼太郎、吉川英治のこれまで読んでいなかったものを読んでいます。最近では山岡荘八の「小説太平洋戦争」に感銘を受けました。戦争の悲惨さ、なぜ戦争になつてしまったのかなど、考えさせられるものがあります。今の子どもたちには、明治以降、争へと突き進んでいったのか、現代史をもっと知って欲しいとあらためて感じています。プラモデル作りについては、子どもものころからの趣味で、在職中はなかなか時間がとれませんでした。妻には指先の運動になる、老化防止だ、などと言いつつ、今は、思う存分取り組んでいます。飛行機ものが多いのですが、何でも作ります。コンクール等に出したり、誰かに見せたりするわけではないのですが、本やインターネット等で調べ、自己満足できる程度にこだわり、工夫を入れます。最近は、ジオラマにも挑戦しています。百円ショップやホームセンターで、ジオラマに流用できる材料を探すのも楽しみの一つです。買いたいプラモがあるとついつい買ってしまうので、部屋にはプラモの箱が山積みで、妻にいつ文句を言われるかとヒヤヒヤしています。

最後に、現在勤めている拠点校指導教員についてです。三年間で六人の初任者と関わってきましたが、新卒あり、講師経験あり、日本人学校経験ありなど、六人六様ですが、六人に共通していることは、教育に対して真摯に向き合い大きな志をもっているということです。彼らにいつも言っていることは、「子どもたちに寄り添う(コミュニケーション)」「自信がもてるものを身に付ける」などです。彼らが志を遂げられるよう、先輩として関わられるのは大きな喜びで、拠点校指導教員としての残りの期間、学校教育のお役に立てるよう、頑張っていきたいと思っています。



だより

を紹介します



筑波山
(筑西市明野地区で撮影)

高萩市

高萩市教頭会は、今年度より、君田小学校・君田中学校が閉校となったため、小学校四校、中学校三校の計七校、会員は八名での運営である。今年度は、新たに一名の会員を迎えた。

毎月の教頭連絡協議会では、市教育長や指導主事からのご指導、さらに現状の課題に対する意見交換、各校の情報交換と、少人数の良さを生かした緊密な連携により、資質向上に努めている。また隣接する北茨城市教頭会と合同研修会を十月に開催し、相互研修を行っている。

本年度の主な活動

- 四月 教頭会総会・第一回教頭連絡協議会
- 五月 第二回教頭連絡協議会
- 六月 第三回教頭連絡協議会
- 七月 第四回教頭連絡協議会
- 八月 第五回教頭連絡協議会
- 九月 第六回教頭連絡協議会
- 十月 第七回教頭連絡協議会
- 十一月 第八回教頭連絡協議会
- 十二月 県教頭会研究大会

水戸市

水戸市教頭会は、小學校三十二校、中学校十五校、義務教育学校一校の五十七名の会員で構成されている。副校長三名を含む、教頭複数配置校が九校という大所帯になる。

多くの教頭が県教育研究会事務局をはじめ、各研究部・専門委員会の事務局の仕事を兼ねながら日々の仕事をこなしている。毎年迎える新会員も、十五名程度と多く、協働性を高め、定例会や研修会を開催しながら一人で考え込むことなく、本会の組織を活かしてそれぞれの職務能力を高めているところである。

十月の研修会では、特にコンプライアンスについてグループ協議を行い各校で対策に当たっている。

本年度の主な活動

- 五月 県教頭会定期総会・研修会
- 七月 市教頭会総会
- 八月 定例会 研修会
- 九月 管理運営研修会
- 十月 全国教頭会研究大会
- 十一月 研修視察 福島県
- 十二月 定例会 研修会

笠間市

笠間市教頭会は、小學校十校、中学校五校、義務教育学校一校の計十六校、副校長一名を含めた十八名で構成されている。

本年度は「グローバル人材の育成」「笠間こども未来プロジェクトの推進」「笠間版小中一貫教育型コミュニティスクールの推進」等、笠間市の教育施策の実践に向けた研修に取り組み、毎月の定例会では、有意義な協議や情報交換が行われている。さらに市教育長や校長、指導室からの指導を仰ぐ機会も設けている。

本年度の主な活動

- 四月 市教頭会総会・研修会
- 五月 市教頭会研究協議会
- 六月 市教頭会研究協議会
- 七月 市教頭会研究協議会
- 八月 市教頭会研究協議会
- 九月 市教頭会研究協議会
- 十月 市教頭会研究協議会
- 十一月 市教頭会研究協議会
- 十二月 市教頭会研究協議会

常陸大宮市

常陸大宮市教頭会は、小學校十一校、中学校五校の会員十六名で構成されている。

本年度は、新たに五名の会員を迎え、会員相互の連携を密にし、学校経営の充実を図るとともに、研修の工夫・充実に努めている。

また、学校運営上の諸問題の解決のための話し合いや情報交換を行い、研鑽を積んでいる。特に、課題を決め、二プロックでの話し合いを行い、より実践的な研修に取り組んできた。

本年度の主な活動

- 四月 市教頭会総会・研修会①
- 五月 市教頭会研修会②
- 六月 市教頭会研修会③
- 七月 市教頭会研修会④
- 八月 市教頭会研修会⑤
- 九月 市教頭会研修会⑥
- 十月 市教頭会研修会⑦
- 十一月 市教頭会研修会⑧
- 十二月 市教頭会研修会⑨
- 一月 市教頭会研修会⑩
- 二月 市教頭会研修会⑪
- 三月 市教頭会研修会⑫

- 五月 第二回教頭連絡協議会
- 六月 第三回教頭連絡協議会
- 七月 第四回教頭連絡協議会
- 八月 第五回教頭連絡協議会
- 九月 第六回教頭連絡協議会
- 十月 第七回教頭連絡協議会
- 十一月 第八回教頭連絡協議会
- 十二月 県教頭会研究大会
- 一月 第九回教頭連絡協議会
- 二月 第十回教頭連絡協議会
- 三月 第十一回教頭連絡協議会
- 四月 第十二回教頭連絡協議会
- 五月 高萩市教頭会代表者会議

- 五月 県教頭会定期総会・研修会
- 七月 市教頭会総会
- 八月 定例会 研修会
- 九月 管理運営研修会
- 十月 全国教頭会研究大会
- 十一月 研修視察 福島県
- 十二月 定例会 研修会

- 四月 市教頭会総会・研修会
- 五月 市教頭会研究協議会
- 六月 市教頭会研究協議会
- 七月 市教頭会研究協議会
- 八月 市教頭会研究協議会
- 九月 市教頭会研究協議会
- 十月 市教頭会研究協議会
- 十一月 市教頭会研究協議会
- 十二月 市教頭会研究協議会

- 四月 市教頭会総会・研修会①
- 五月 市教頭会研修会②
- 六月 市教頭会研修会③
- 七月 市教頭会研修会④
- 八月 市教頭会研修会⑤
- 九月 市教頭会研修会⑥
- 十月 市教頭会研修会⑦
- 十一月 市教頭会研修会⑧
- 十二月 市教頭会研修会⑨
- 一月 市教頭会研修会⑩
- 二月 市教頭会研修会⑪
- 三月 市教頭会研修会⑫

今回紹介の郡市

P6

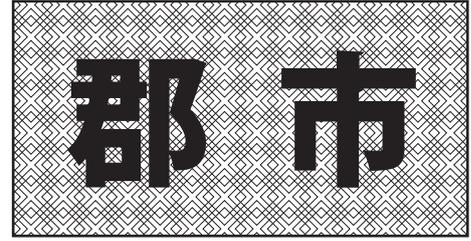
- ・かすみがうら市
- ・古河市
- ・筑西市
- ・常総市
- ・猿島郡

P5

- ・久慈郡
- ・鹿嶋市
- ・龍ヶ崎市
- ・守谷市

P4

- ・高萩市
- ・水戸市
- ・笠間市
- ・常陸大宮市



各郡市の活動

久慈郡

久慈郡教頭会は、小学校七校、中学校四校の十一名の会員で構成されている。

今年度は、四名の会員を迎え、会員相互の連携・協力を図りながら、研修や情報交換を通して、教頭としての資質の向上に努めている。

毎月開催している研修会では、町教育委員会からの指導や伝達をいただくとともに、学校運営上の諸問題を解決するための協議や情報交換を通して研修を深めている。

本年度の主な活動

- 四月 町教頭会総会・研修会
- 五月 第一回町教頭会研修会
- 六月 第二回町教頭会研修会
- 学校運営研修会
- 七月 第三回町教頭会研修会
- 第四回町教頭会研修会
- 八月 町学校経営研究発表会
- 十月 第五回教頭会研修会
- 十月 第六回教頭会研修会
- 十一月 第七回教頭会研修会
- 一月 第八回教頭会研修会
- 二月 第九回教頭会研修会
- 三月 町教頭会役員会

鹿嶋市

鹿嶋市教頭会は、小学校十二校、中学校五校、会員数二十一名で構成されている。

今年度四名の新会員を迎え、会員相互の連携・協力を図りながら副校長・教頭としての資質向上に努めている。

毎月の研修会では、市教育委員会から指導・伝達をいただいている。また、学校運営上の課題について協議したり、各学校等の情報を交換したりすることにより、学校運営の充実に生かしている。

本年度の主な活動

- 四月 市教頭会総会・研修会
- 五月 市教頭会研修会
- 六月 市教頭会定期総会・研修会
- 市教頭会研修会
- 七月 市教頭会研修会
- 八月 市管理運営研修会
- 九月 市教頭会研修会
- 十月 市教頭会研修会
- 十月 市教頭会研修会
- 十一月 市教頭会研究大会
- 十一月 市教頭会研修会
- 一月 市教頭会研修会
- 二月 市教頭会研修会
- 三月 市教頭会研修会

龍ヶ崎市

龍ヶ崎市教頭会は、小学校十一校、中学校六校、十九名の会員（副校長を含む）で構成され、会長を中心に会員相互の連携を図りながら資質・能力の向上に努めている。

今年度は、「龍の子小中一貫教育の実践に向けた研修」「学力向上に向けた教頭としての取組」「心にしみいるコンプライアンス研修の実践」を重点課題として研修に取り組んでいる。

八月の研修会では、筑波大学より講師を招聘し「シテイブزنシップ教育で創る学校の未来」をテーマにご講話をいただいた。

本年度の主な活動

- 四月 市教頭会総会
- 五月 第一回定例研修会
- 六月 市教頭会定期総会・研修会
- 第二回定例研修会
- 七月 第三回定例研修会
- 八月 第四回定例研修会
- 八月 全国関プロ教頭会研究大会
- 九月 第五回定例研修会
- 十月 第六回定例研修会
- 十一月 市教頭会研究大会
- 十一月 第七回定例研修会
- 十一月 第八回定例研修会
- 十二月 第九回定例研修会
- 十二月 第十回定例研修会
- 三月 第十一回定例研修会

守谷市

守谷市教頭会は、小学校九校、中学校四校、副校長を含む十四名の会員で構成されている。

今年度は四名の新入会員を迎えた。会員相互の連携を図りながら、本市が推進する、保幼小中高一貫教育の充実に向けて、学校運営の充実に向日々実践の毎日である。

毎月の学校運営研修会では、市教育委員会教育長職務代理者、指導室長の講話やご指導をいただきながら、学校運営上の諸問題についての協議や情報交換を通して、研修を深めている。

本年度の主な活動

- 四月 教頭会総会
- 定例学校運営研修会
- 五月 定例学校運営研修会
- 市教頭会定期総会・研修会
- 六月 定例学校運営研修会
- 七月 定例学校運営研修会
- 八月 三者合同研修会
- 九月 定例学校運営研修会
- 十月 定例学校運営研修会
- 十一月 市教頭会研究大会
- 十一月 定例学校運営研修会
- 十二月 定例学校運営研修会
- 十二月 定例学校運営研修会
- 三月 定例学校運営研修会

かすみがうら市

本市の学校教育目標「人間性豊かで、よりよい生き方を求める子供の育成を図る」を目標に、かすみがうら市

教頭会も、学校長会の指導・助言をいただきながら、小学校八校、中学校三校、会員十二名で切磋琢磨しながら共同体感覚を大切に活動している。

本年度は、三名の新会員を迎え、研修や情報交換を通して教頭としての資質向上・小中連携に努めている。毎月開催する定例研修会では、市指導室長を迎え、講話や指導・助言を受け、学校運営上の諸問題について協議しながら研修を深めている。

本年度の主な活動

- 四月 定例研修会・組織作り
五月 県教頭会定期総会・研修会
六月 定例研修会
七月 定例研修会
八月 全国・関プロ教頭会研究大会
学校運営研修会発表会
九月 定例研修会
十月 定例研修会
十一月 定例研修会
十二月 定例研修会
一月 定例研修会
二月 定例研修会
三月 定例研修会・次年度計画

古河市

古河市教頭会は、小学校二十三校、中学校九校、三十五名の会員で構成されている。

本年度は、新たに十名の会員を迎え、会員相互の連携と親睦を深めつつ、教頭としての資質の向上をめざして研修の充実に努めている。

本年度の主な活動

- 四月 第一回市教頭研修会
五月 第三回市教頭研修会
六月 第四回市教頭研修会
七月 第五回市教頭研修会
八月 市学校運営合同研修会
県西ブロック教頭会研修会
九月 第六回市教頭研修会
十月 第七回市教頭研修会
十一月 県教頭会研究大会
十二月 第八回市教頭研修会
一月 第九回市教頭研修会
二月 第十回市教頭研修会
三月 第十一回市教頭研修会

筑西市

筑西市教頭会は、小学校二十校、中学校七校、二十九名の会員で構成されている。

本年度は、九名の新会員を迎え、月一度の研修会を通して、会員相互の連携・協力を図りながら、教頭としての資質の向上に努めている。

本年度の主な活動

- 四月 市教頭会総会・研修会
五月 市教頭会研修会
六月 市教頭会研修会
七月 市教頭会研修会
八月 県西ブロック教頭会研修会
九月 市教頭会研修会
十月 市教頭会研修会
十一月 県教頭会研究大会
十二月 市教頭会研修会
一月 市教頭会研修会
二月 市教頭会研修会
三月 市教頭会研修会

常総市

常総市教頭会は、小学校十四校、中学校五校の二十名の会員で構成されている。

本年度は、十名の新会員を迎え、会長を中心に会員相互の連携を深めながら、教頭としての資質向上に努めている。月一回の定例研修会会場は、市内十九校を行政順に巡回するため、各校の環境や地域の様子等を知ることができる。市教育委員会、会場校長からご指導をいただきながら、学校運営上の諸問題の研究協議や情報交換を行い、実践的な研修を進めている。

本年度の主な活動

- 四月 市教頭会研修会
五月 市教頭会研修会
六月 市教頭会研修会
七月 市教頭会研修会
八月 市教頭会研修会
九月 市教頭会研修会
十月 市教頭会研修会
十一月 市教頭会研修会
十二月 市教頭会研修会
一月 市教頭会研修会
二月 市教頭会研修会
三月 市教頭会研修会

猿島郡

猿島郡教頭会は、小学校七校、中学校三校の会員十一名で構成されている。

本年度は、新たに六名の会員を迎え、会員相互の連携を密にし、教頭としての資質の向上をめざし、研修の充実に努めている。

本年度の主な活動

- 四月 第一回連絡協議会
五月 第三回連絡協議会
六月 第四回連絡協議会
七月 第五回連絡協議会
八月 学校運営研究協議会
県西ブロック教頭会研修会
九月 第六回連絡協議会
十月 第七回連絡協議会
十一月 県教頭会研究大会
十二月 第八回連絡協議会
一月 第九回連絡協議会
二月 第十回連絡協議会
三月 第十一回連絡協議会

学校紹介

活気あふれる学校に

常陸太田市立世矢中学校

本校は、常陸太田市の南東部に位置し、東には大理石が産出される阿武隈山系の山並みが迫っている。生徒数が年々減少し、現在八十一名である。

今年度は生徒の現状を踏まえ、「生徒一人一人の実践力を高める教育活動の展開」を組織目標に設定し、教育活動を進めている。本校では一昨年より生徒の行動指針として、「時を守り、場を淨め、誠を尽くす」を掲げ、黙働清掃の徹底や充実した生徒会活動に力を注いでいる。これまでにあった体育祭や文化祭（あすなる祭）、各委員会による生徒集会等では、基本的に企画立案を生徒に任せ、教師側と話し合いを重ねながら実施する方向で進めてきた。



その中で体育祭では「感動的でした。どの団も最初から団結していた訳ではなく、練習を進める中でどんどん団結していききました。当日も全力を出し切れてよかった」との振り返りができました。また、文化祭では「昨年度までの反省を生かし、人数も少なくなりましたが、今までとちよつと違うあすなる祭にしたい」と意気込みを語っていた。

来年度から数年間は、生徒数が六十名台になり、寂しさを感じる。今後とも幼小中での連携を密にするとともに、保護者や地域からも協力をいただきながら「今日も来て良かった」と思える学校づくりに取り組んでいきたいと考えている。

地域とよむ学校

取手市立戸頭小学校

本校は、戸頭西小学校と戸頭東小学校が統合して平成二十七年に開校した。現在児童数は五三三名である。

戸頭地区内には、保育園、幼稚園、中学校があり連携しやすいのが特徴である。二年生は、近隣の幼児の園児を招き自分たちが作ったおもちゃと一緒に遊んでいる。一年生は、小学校の楽しさを幼児の園児に伝える学習を行い、お土産に松ぼっくりけん玉を園児全員にプレゼントと

している。運動会では、事前に中学生から応援台戦の指導を受け、中学校の体育祭には小学生が審査員として参加している。



中学校体育祭にて応援、採点する小学生

また、日常の教育活動も地域の方にも支えられている。

月に一、二回の「読み聞かせ」はボランティアによって行われ十八学級全てが毎回実施している。会員募集のポスターもボランティアの手作りで、時には人形劇もあり児童はこの活動を楽しみにしている。

登下校時には三二名のスクーパトロール隊が児童の登下校の安全安心を見守っている。この活動は十三年続いており、お陰様で大きな事故もなく登下校ができています。

古くからの町並みと団地とが融合している戸頭地区は、地域の方の温かい協力がある。「心をついに成し遂げるくすべでは

子ども達の笑顔のために」を合い言葉に、これからも地域に生きる愛される学校を目指していききたい。

「よむ」があふれる学校

ひたちなか市立佐野中学校

本校は、ひたちなか市の一番北側に位置しています。全校生徒七百九十五名・学級数二十七・教職員数五十名で、県内有数の大規模校です。また、昨年五月には創立七十年を迎え、生徒会が運営し、地域の各世代の卒業生をお呼びして「七十周年記念集会」を開催しました。自治会長さんやPTA会長さんをお交えて「これからの佐野中学校の姿」をテーマに活発なパネルディスカッションが行われました。本校の三つの特色ある取組について紹介します。

二者面談です。一人当たり十分間の短時間ですが、担任が学級の全生徒と面談します。生徒一人一人を理解するための貴重な機会として大切にしています。

三つ目は笑顔プロジェクトです。生徒会が中心となり、いじめのない学校を目指して、学校全体が一丸となつて「生徒が誇りに思える学校づくり」に取り組んでいます。毎月十日を「ありがとうの日」とし、感謝の気持ちを一枚の葉や花の形の紙に書き「ありがとうの木」に貼つて、温かい言葉を綴っています。加えて、佐野中学校のマスコットキャラクターの「佐野助」「のぼらちゃん」を様々な行事に登場させ、笑顔のあふれる楽しい学校生活になるように活動しています。



一つ目は、生徒会が企画する縦割り班活動と希望者による登録制のボランティア活動についてです。（今年度は二百四名が登録）縦割り班では、佐和駅や学区の公園の清掃活動を、登録ボランティアでは、社会福祉施設や保育園、独居老人宅訪問、地区運動会など地域行事への参加を行っています。地域の方から感謝の声が寄せられています。二つ目は話そう会についてです。放課後に行う担任と生徒の

今後も、生徒会が中心となつて行う「佐野しぐさ」を継承し生徒、保護者、地域にとつて「よい学校」が実感できるように日々教職員一丸となつて取り組んでいききたいと思えます。



地域の方と共に

城里町立常北小学校
原口 次夫

毎朝、本校前の交差点で地域の方と共に交通安全指導を行っている。安全に横断歩道を渡り、元氣よく挨拶をする子供の姿を見ているととても気持ちが良い。

本校に赴任して三年目になるが、最初は、挨拶する声が小さい小・中学生が多かった。朝の表情の様子を観察して、眠そうな子、何か家で嫌なことがあったのかなと思わせるような子もいた。

「挨拶はコミュニケーションのはじまり」とよく言われるが、毎朝、こちらから進んで挨拶をしていると、だんだん声も大きくなり、自ら進んで挨拶をするところからでも笑顔で手を振る子も出てきた。今では、今日の天気や行事のこと、遠足後の感想等信号待ちでのちよつとした時間に子供たちと話せるようになってきている。挨拶の大切さを感じながら交通安全指導ができることを幸せに思う。地域の方と共にできることに

感謝し、より多くの児童生徒が挨拶やコミュニケーションができるようにさらに働きかけていきたい。

朝ドラ「ひよっこ」を観て

鉾田市立旭東小学校
中澤 浩

茨城を題材にした朝ドラ「ひよっこ」が好評のうちに半年間の放映を終えた。これまで一度も朝ドラを観たことがない私も

茨城の物語であること、大ファンの主役に放映前から楽しみにし、夢中で観ていた。東京オリピック年生まれの自分にとって、かすかに覚えているモノトーンの記憶が、色鮮やかに着色されていくような思いになり、懐かしさとともに感動をたくさんいただいた。また主役と母の年齢が同じであったことも、寡黙な母が饒舌に当時を語るきっかけにもなり、我が家は大変盛り上がりがあった。物語の素晴らしさはもちろんであるが、何より家族全員で視聴し、時には泣き、時には笑い、終わっても会話が尽きない、そのような家族団らんが増えたことに心から感謝したい。息子が東京の大学へ進学して家から離れ、高二の娘も部活で忙しく帰日も遅い。家族が揃うのは二十二時近くになる。

歴史と伝統を受け継ぐ

利根町立文間小学校
田崎 博文

そうした中で必ず家族全員で観た半年間は貴重なものとなった。超過勤務が問題となっている。今、本校の職員にも家族の時間の自分の時間をとれるよう業務の改善に努めたい。「ひよっこ」主役の最終回最後の一言、「みんないっしょに頑張っぺ。」

私が北相馬郡利根町に赴任したのは一年半前になる。

「思えば遠くへ来たもんだ」片道七〇km。初めてこの地を訪れたとき、町役場から利根川の雄大な流れを暫し眺めた。これまで見てきた常磐線や常磐道からの利根川の眺めとは違った。

そのときには、利根川が度々氾濫を繰り返して、人々の命を脅かしてきた利根川の歴史にまで思いを馳せることはできなかった。利根町には、利根地固め倶保存会という組織が存在する。利根地固め倶は、江戸時代の頃から、利根川堤防の補修工事の際、作業する人たちに歌われてきた。工事の機械化に伴い忘れ去られていたが、一九八九年に保存会が結成され、今日に至っている。本校では、毎年、四年生の児童が保存会の方々から「利根地固

め倶」を学ぶ機会をもち、十一月の学習発表会で衣装を身に纏って披露している。歴史と文化を同時に学べる貴重な機会でも感謝している。

地固め保存会の活動は、年間を通して行われているが、本校の四年生は単年の活動であり、小学校卒業後、保存会の活動に参加する子がいなのは残念なことである。

「私は、地固め倶保存会の役員となつて活動しています。」月日が流れ、どこかで出会ったときに、こんな言葉を文問つ子たちから聞きたいものである。

海を守りたい

八千代町立下結城小学校
外山 薫

スキューバダイビングのライセンスをとつて、十五年になる。思うように長期の休みがとれず、取得当初はペーパーダイバーのような状態であった。

数年前から年に一度程度、石垣島を中心とした沖縄の海で潜れるようになった。海の中は、地上では想像も付かない感動の世界が待ち受けている。色とりどりの熱帯魚や珊瑚、真っ青な海の碧さどこまでも続く真っ白な砂地のコントラスト、体長五メートルを超えるマンタの群

れ、自然の造形のすばらしさに心を奪われる。

今年の八月後半、二年ぶりに石垣島を訪れた。大好きなたくさんのおウミガメの歓迎を受けた。ただ残念なことに、台風の影響、温暖化による白化で珊瑚はこれまでの、様子とは違っていた。

珊瑚は動物の一種であるが、他の動物のように自由に動き回ることはできないため、生息する環境の影響を受けやすい。

今年の産卵によつて生まれたと思われる小さな珊瑚を見つけた。小さいながらも、美しく輝く姿を写真に収めた。

地球の自然環境を永く守っていきたく、改めて感じた。

編集後記

教頭会会報一七九号(県西地区担当)を発行するにあたり、各ページの執筆に際し、ご多用な時期にもかかわらず、ご多量な原稿をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

原稿の編集作業をしながら、皆様より先に原稿を読ませていただき、力が湧いてくるように感じています。

お陰様で、会報を皆様にお届けすることができました。皆様のご協力に、深く感謝申し上げます。